

木造軸組工法用 現場検査チェックシート（基礎）/特定住宅版



郵

申込受付番号							
--------	--	--	--	--	--	--	--

事業者情報		
団体検査員番号		
団体検査員名		

現場検査立会者名			
現場検査日時	年 月 日		
	時 分	～	時 分

検査項目			適否の判断基準	判定	確認方法		
					目視計測	書類	聴取
1 地盤調査	1 地盤調査の実施状況		<input type="checkbox"/> 設計施工基準に基づいて地盤調査が実施されている • SWSは4隅含めて4箇所以上 又は工学的根拠から3箇所以下 • 適切な地盤調査方法である（※平板載荷試験の単独は不可） <input type="checkbox"/> 現地調査チェックシートが全てA判定のため地盤調査を省略している（戸建木造2階建て相当に限る）				
	2 地盤調査の考察		地盤調査会社等が工学的に考察を行い、地盤補強の要否や基礎の形式等が判断されている				
2 地業・地盤補強	1 地業		地業を実施している				
	2 地盤補強の実施状況		<input type="checkbox"/> 地盤調査結果に基づいた考察において、地盤補強が不要と判断されている <input type="checkbox"/> 考察に基づいて地盤補強工法が選定され、実施されている（工法を以下にチェック） <input type="checkbox"/> 柱状改良 <input type="checkbox"/> 表層改良 <input type="checkbox"/> 小口径鋼管杭 <input type="checkbox"/> 木杭 <input type="checkbox"/> 小口径コンクリート杭 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
3 基礎	1 基礎の構造		基礎の形式が地盤調査結果等に基づいて選択されている				
			根入れ深さが告示1347号に適合するように設計、施工されている • 布基礎240mm以上 べた基礎120mm以上				
	2 底盤	布基礎	告示1347号に適合するように設計、施工されている • 厚さ150mm以上 • 地盤の許容応力度に応じた底盤の幅 • ベース筋の径D10以上、間隔300mm以下				
		べた基礎	配筋根拠が以下のいずれかである <input type="checkbox"/> べた基礎配筋表 <input type="checkbox"/> 構造計算 <input type="checkbox"/> 工学的判断（告示1347号、スパン表等） 配筋根拠に基づいて施工されている • 告示1347号 底盤の厚さ120mm以上、鉄筋径D10以上 間隔300mm以下				
	3 立上り部分		告示1347号に適合するように施工されている • 厚さ120mm以上 • 鉄筋径 主筋D13以上、縦筋D10以上、間隔300mm以下 鉄筋の継手 <input type="checkbox"/> 重ね継手 <input type="checkbox"/> その他				
4 別工区の施工状況			<input type="checkbox"/> 現場検査時に未施工の工区がある <input type="checkbox"/> 現場検査時に施工済の工区がある（工区を以下にチェック） <input type="checkbox"/> 深基礎部分 <input type="checkbox"/> 一部地下部分の基礎 <input type="checkbox"/> 別工区部分の基礎				
3条確認			<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有⇒機構整理番号：				
特記事項							
結果			<input type="checkbox"/> 指摘内容はありません <input type="checkbox"/> 指摘内容通知書を確認する				

【凡例】 判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]

確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「レ」を記入]

木造軸組工法用 現場検査チェックシート（構造）/特定住宅版



郵

申込受付番号							
--------	--	--	--	--	--	--	--

事業者情報		
団体検査員番号		
団体検査員名		

現場検査立会者名			
現場検査日時	年 月 日		
	時 分	～	時 分

検査項目			適否の判断基準	判定	確認方法		
					目視計測	書類	聴取
基礎	3	5 基礎高さ	地盤面からの高さが300mm以上である（特定住宅は400mm以上）				
4 土台	1	土台の設置状況	□柱の下部に土台を設置 □柱を基礎に緊結 □その他（足固め設置等）				
	2	基礎との緊結	土台と基礎がアンカーボルト等により緊結されている				
5 柱	1	小径	1階部分の柱の小径が建築基準法施行令第43条第1項を満たす径である				
	2	欠き込み	□なし □あり（補強措置を実施）				
	3	すみ柱	□通し柱 □管柱（補強措置を実施）				
	4	柱脚・柱頭の接合方法	金物の設置に明らかな不具合が無い ・種類 ・留め付け方法 ・締め付け状態 等				
6 耐力壁	1	筋かい耐力壁	筋かいの欠き込み □なし □あり（補強金物を設置） 端部金物の設置状況に明らかな不具合が無い ・金物の種類、留め付け方法				
	2	面材耐力壁	□構造用合板 □構造用パネル □せっこうボード □その他 ・JASマーク等の認定マーク等から確認 面材耐力壁の釘打ち間隔が以下のいずれかを満たしている □面材の仕様 □告示1100号				
架材横	7	1 欠き込み	中央下端部に構造耐力上支障となる欠き込みがない				
8 床組	1	火打ちばり	火打ちばりが設計図書とおりの位置に設置されている				
	2	面材床	2階以上の床が面材床で構成されている				
9 小屋組	1	振れ止め	□振れ止め等が設置されている □構造計算により省略 □屋根緩勾配等により振れ止め無し				
	2	たる木	軒先と接合されている				
	3	構成材	小屋組みが以下のいずれかの部材で構成されている □火打ちばり □面材				
3条確認		□無 □有⇒機構整理番号：					
特記事項							
結 果		□ 指摘内容はありません		□ 指摘内容通知書を確認する			

【凡例】 判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]
 確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「レ」を記入]

枠組壁工法用 現場検査チェックシート（基礎）/特定住宅版



郵

申込受付番号							
--------	--	--	--	--	--	--	--

事業者情報		
団体検査員番号		
団体検査員名		

現場検査立会者名			
現場検査日時	年 月 日		

検査項目			適否の判断基準	判定	確認方法				
1 地盤調査	1 地盤調査の実施状況	2 地盤調査の考察	□設計施工基準に基づいて地盤調査が実施されている ・SWSは4隅含めて4箇所以上 又は工学的根拠から3箇所以下 ・適切な地盤調査方法である（※平板載荷試験の単独は不可） □現地調査チェックシートが全てA判定のため地盤調査を省略している（戸建木造2階建て相当に限る）		目視計測	書類	聴取		
			地盤調査会社等が工学的に考察を行い、地盤補強の要否や基礎の形式等が判断されている						
2 地業	1 地業	地業を実施している							
	2 地盤補強の実施状況	□地盤調査結果に基づいた考察において、地盤補強が不要と判断されている □考察に基づいて地盤補強工法が選定され、実施されている（工法を以下にチェック） □柱状改良 □表層改良 □小口径鋼管杭 □木杭 □小口径コンクリート杭 □その他（ ）							
3 基礎	1 基礎の構造	基礎の形式が地盤調査結果等に基づいて選択されている							
		根入れ深さが告示1347号に適合するように設計、施工されている ・布基礎240mm以上 べた基礎120mm以上							
3 基礎	2 底盤	布基礎	告示1347号に適合するように設計、施工されている ・厚さ150mm以上 ・地盤の許容応力度に応じた底盤の幅 ・ベース筋の径D10以上、間隔300mm以下						
		べた基礎	配筋根拠が以下のいずれかである □べた基礎配筋表 □構造計算 □工学的判断（告示1347号、スパン表等）						
3 基礎	3 立上り部分	配筋根拠に基づいて設計、施工されている ・告示1347号 底盤の厚さ120mm以上、配筋は鉄筋径D10以上 間隔300mm以下							
		告示1347号に適合するように施工されている ・厚さ120mm以上 ・鉄筋径 主筋D13以上、縦筋D10以上、間隔300mm以下							
3 基礎	4 別工区の施工状況	鉄筋の継手 □重ね継手 □その他							
		□現場検査時に未施工の工区がある □現場検査時に施工済の工区がある（工区を以下にチェック） □深基礎部分 □一部地下部分の基礎 □別工区部分の基礎							
3条確認		□無 □有⇒機構整理番号 :							
特記事項									
結 果		□ 指摘内容はありません		□ 指摘内容通知書を確認する					

【凡例】判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]

確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「レ」を記入]

枠組壁工法用 現場検査チェックシート（構造）/特定住宅版



郵

申込受付番号						
--------	--	--	--	--	--	--

事業者情報		
団体検査員番号		
団体検査員名		

現場検査立会者名			
現場検査日時	年 月 日		
	時 分	～	時 分

検査項目			適否の判断基準	判定	確認方法			
					目視計測	書類	聴取	
基礎	3	5 基礎高さ	地盤面からの高さが300mm以上である（特定住宅は400mm以上）					
4 材料	1	枠組材	土台、壁枠組材、たる木、天井根太が38mm×89mmを満たしている					
			□床枠組材(根太)の断面寸法が38mm×140mmを満たしている □根太レス工法					
5 土台	2	面材	床、壁、屋根下地に用いられている面材が告1540第二の二に掲げられている表に適合する種類、規格である（種類を以下にチェック） □構造用合板 □構造用パネル □パーティクルボード □その他（ ）					
			・1階の耐力壁の下部に土台が設置されている ・地階があり、耐力壁の下部に土台が設置されてない場合、床根太が補強されている					
6 床版	1	床根太の設置	□床根太のスパンが8m以内である □床根太のスパンが4.5m以上8m以内であり、床根太の辺長比が38mm×286mmより大きいため、3m以下ごとに転び止めが設けられている □根太レス工法である					
			床根太相互及び床根太と側根太との間隔が650mm以下である					
7 壁等	2	開口部	床版開口部に補強措置が講じられている					
8 架材横	1	耐力壁の量・配置	耐力壁線間距離が12m以下である					
			耐力壁線に囲われた部分の面積が以下のとおりである □40m ² 以下 □40m ² 超60m ² 以下（補強措置有り） □60m ² 超72m ² 以下 長辺／短辺≤2（補強措置有り）					
9 小屋組	2	開口部の構造	耐力壁線上の開口部幅が以下のとおりである ・幅が4m以内である ・開口部の幅の合計が当該耐力壁線の長さの4分の3を超えていない					
10 窓	1	床根太等の欠き込み等	横架材の中央部付近の下部に構造耐力上支障となる欠き込みがない					
11 開口部	1	たる木等	たる木相互の間隔が650mm以下である					
			たる木つなぎ、振れ止めが設置されている					
12 小屋組	2	小屋組の緊結	たる木又はトラスが頭つなぎ及び上枠に金物等で緊結されている					
13 窓	3	開口部の構造	開口部の幅が以下のとおりである ・一箇所あたりの開口部の幅が2m以下である ・幅が2m超3m以下の開口部に補強等の措置が講じられている					
3条確認		□無 □有⇒機構整理番号：						
特記事項								
結果		□ 指摘内容はありません			□ 指摘内容通知書を確認する			

【凡例】判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]

確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「レ」を記入]

邸

申込受付番号							
--------	--	--	--	--	--	--	--

事業者情報		
団体検査員番号		
団体検査員名		

現場検査立会者名			
現場検査日時	年 月 日		

検査項目			適否の判断基準	判定	確認方法		
1 地盤調査	1 地盤調査の実施状況	2 地盤調査の考察	目視計測		書類	聴取	
1 地盤調査	1 地盤調査の実施状況	2 地盤調査の考察	設計施工基準に基づいて地盤調査が実施されている ・計測箇所4箇所以上 又は工学的根拠から3箇所以下 ・適切な地盤調査方法である（※平板載荷試験の単独は不可）				
2 杭・地盤補強	1 杭基礎	2 地盤補強の実施状況	杭基礎の種類、仕様が設計図書とおりである 地盤調査結果の考察又は設計者の考察に基づいて、以下いずれかの対応がなされている □地盤補強が不要と判断されている □地盤補強が実施されている（工法を以下にチェック） □柱状改良 □表層改良 □小口径鋼管杭 □木杭 □小口径コンクリート杭 □その他（ ）				
3 基礎	1 基礎の構造	2 鉄筋のかぶり	3 鉄筋の品質	4 独立基礎の配筋	5 基礎梁の配筋	6 スラブ配筋	7 鉄筋の定着
	基礎の構造	鉄筋のかぶり	鉄筋の品質	独立基礎の配筋	基礎梁の配筋	スラブ配筋	鉄筋の定着
	鉄筋のかぶり	土に接する部分のかぶり厚さが設計図書とおりである	鉄筋の品質	鉄筋径・本数・間隔等が設計図書とおりである	基礎梁主筋の径・本数、肋筋の径・間隔等が設計図書とおりである	基礎スラブ（耐圧盤）の鉄筋径・間隔等が設計図書とおりである	主筋の定着位置、定着長さが設計図書とおりである
	別工区の施工状況	9 開口補強	10 別工区の施工状況	8 主筋の継手	7 鉄筋の定着	6 スラブ配筋	5 鉄筋の定着
	別工区の施工状況	開口部の補強配筋が設計図書とおりに施工されている	別工区の施工状況	主筋の継手位置が設計図書とおりである	主筋の定着位置、定着長さが設計図書とおりである	基礎スラブ（耐圧盤）の鉄筋径・間隔等が設計図書とおりである	主筋の定着位置、定着長さが設計図書とおりである
	特記事項	3条確認	3条確認	3条確認	3条確認	3条確認	3条確認
	結果	□指摘内容はありません	□指摘内容はありません	□指摘内容はありません	□指摘内容はありません	□指摘内容はありません	□指摘内容はありません

【凡例】判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]

確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「レ」を記入]

郵

申込受付番号							
--------	--	--	--	--	--	--	--

事業者情報		
団体検査員番号		
団体検査員名		

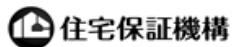
現場検査立会者名			
現場検査日時	年 月 日		

検査項目			適否の判断基準	判定	確認方法		
					目視計測	書類	聴取
コンクリート	1	品質	コンクリートがJIS規格品（JIS A 5308）又は大臣認定品である				
	2	強度	□コンクリートの圧縮強度が品質基準強度以上であることが 4週強度の試験報告書等により確認できる □コンクリートの納品書や配合計画書に記載されている 調合管理強度(呼び強度)が品質基準強度以上である				
	3	打上りの状態	打込み欠陥（ジャンカ・打継欠陥・硬化不良等）が無く、均質に施工されている				
鉄筋躯体	1	鉄筋の品質	躯体に用いられている鉄筋の品質がJIS規格品(JIS G 3112) 又は大臣認定品である				
厚さ	1	鉄筋かぶり厚さ	柱、梁及び耐力壁は30mm、床版は20mmのかぶり厚さが確保されている				
柱	1	寸法・配筋方法	柱寸法、主筋の径・本数、帯筋の径・間隔が設計図書とおりに施工されている				
梁	1	寸法・配筋方法	梁寸法、主筋の径・本数、肋筋の径・間隔が設計図書とおりに施工されている				
	2	鉄筋の定着	梁主筋の定着位置、定着長さが設計図書とおりである				
	3	梁・壁梁の開口補強	開口部の補強配筋が設計図書とおりに施工されている				
継手	1	主筋の継手	柱と梁の主筋の継手位置が設計図書とおりである				
	2	継手の品質検査	柱と梁の主筋の継手部の品質検査が実施されている				
壁	1	耐力壁の厚さ	耐力壁厚さが120mm以上（CB造は150mm以上）である				
	2	配筋方法・鉄筋の定着	鉄筋の径・間隔、柱・梁等への定着長さが設計図書とおりである				
	3	壁の開口補強	開口部の補強配筋が設計図書とおりに施工されている				
	4	耐震スリット	耐震スリットが設計図書とおりに設置されている				
床版	1	スラブ厚さ	スラブ厚さが設計図書とおりである				
	2	配筋方法・鉄筋の定着	スラブ筋の径・間隔等が設計図書とおりである				
	3	片持ちスラブ	片持ちスラブの定着及び上端筋の高さ位置が確保されている				
P1 C2	1	緊結	プレキャスト版相互の緊結状況が設計図書とおりである				
3条確認		□無 □有⇒機構整理番号：					
特記事項							
結果		□ 指摘内容はありません	□ 指摘内容通知書を確認する				

【凡例】判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]

確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「レ」を記入]

RC・SRC・CB造用
現場検査チェックシート (SRC補充版) /特定住宅版



邸

申込受付番号						
--------	--	--	--	--	--	--

事業者 情報		
団体検査 員番号		
団体検査 員名		

現場検査 立会者名			
現場検査 日時	年 月 日		

時 分 ~ 時 分

検査項目			適否の判断基準	判定	確認方法			
					目視 計測	書類	聴取	
柱脚 A	1	接合工法	柱脚の接合工法が設計図書とおりの工法である					
鋼材 B	1	鋼材等の品質	鋼材がJIS規格品又は大臣認定品である					
C 鉄骨の施工	1	部材の寸法・形状・配置	柱が設計図書にさだめる寸法・形状・配置で施工されている					
			梁が設計図書にさだめる寸法・形状・配置で施工されている					
			筋交いが設計図書にさだめる寸法・形状・配置で施工されている					
	2	溶接接合部の検査	溶接部を対象に以下の検査が実施され、割れやアンダーカット等の構造耐力上支障のある欠陥が無い □外観検査 □超音波探傷検査					
	3	高力ボルト接合	高力ボルトとして以下の部材が用いられ、本数、スプライス数等が設計図書のとおりに施工されている □トルシア形 □JIS形六角					
			摩擦接合部の摩擦面は、赤さびが発生した状態又はショットブラスト等の方法で所定のすべり係数を有する状態である					
			締付け状態に明らかな不具合がない ・肌すきがないこと ・ピンテールが破断していること ・マーキングにズレがあり共回りしていないこと					
3条確認		<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有⇒機構整理番号：						
特記事項								
結 果		<input type="checkbox"/> 指摘内容はありません		<input type="checkbox"/> 指摘内容通知書を確認する				

【凡例】判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」(斜線)を記入]

確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「レ」を記入]

鉄骨造用 現場検査チェックシート（基礎）/特定住宅版



郵

申込受付番号						
--------	--	--	--	--	--	--

事業者情報		
団体検査員番号		
団体検査員名		

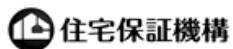
現場検査立会者名			
現場検査日時	年 月 日 時 分 ~ 時 分		

検査項目		適否の判断基準	判定	確認方法		
				目視 計測	書 類	聴 取
1 地盤調査	1 地盤調査の実施状況	設計施工基準に基づいて地盤調査が実施されている ・計測箇所4箇所以上 又は工学的根拠から3箇所以下 ・適切な地盤調査方法である（※平板載荷試験の単独は不可）				
	2 地盤調査の考察	地盤調査会社等が工学的に考察を行い、地盤補強の要否や基礎の形式等が判断されている				
2 杭・地盤補強	1 杭基礎	杭基礎の種類、仕様が設計図書とおりである				
	2 地盤補強の実施状況	地盤調査結果の考察又は設計者の考察に基づいて、以下いずれかの対応がなされている □地盤補強が不要と判断されている □地盤補強が実施されている（工法を以下にチェック） □柱状改良 □表層改良 □小口径鋼管杭 □木杭 □小口径コンクリート杭 □その他（ ）				
3 基礎	1 基礎の構造	□構造計算 □設計施工基準第6条による				
	2 鉄筋のかぶり	土に接する部分のかぶり厚さが設計図書とおりである				
	3 独立基礎の配筋	鉄筋径・本数・間隔等が設計図書とおりである				
	4 基礎梁配筋	基礎梁主筋の径・本数、肋筋の径・間隔等が設計図書とおりである				
	5 スラブ配筋	基礎スラブ（耐圧盤）の鉄筋径・間隔等が設計図書とおりである				
	6 鉄筋の定着	主筋の定着位置、定着長さが設計図書とおりである				
	7 主筋の継手	主筋の継手位置が設計図書とおりである				
	8 開口補強	開口部の補強配筋が設計図書とおりに施工されている				
	9 別工区の施工状況	□現場検査時に未施工の工区がある □現場検査時に施工済の工区がある（工区を以下にチェック） □深基礎部分 □一部地下部分の基礎 □別工区部分の基礎				
4 鉄筋	1 鉄筋の品質	鉄筋がJIS規格品（JIS G 3112）又は大臣認定品である				
5 柱脚部	1 露出柱脚	アンカーボルトが設計図書とおりの位置に施工されている				
	2 根巻柱脚	根巻き部分の高さ、根巻き部分の主筋の本数及び基礎への定着が設計図書とおりに施工されている				
	3 埋込み柱脚	埋込み部分の寸法・かぶり（埋込み深さ及び鉄骨かぶり厚さ）が設計図書とおりに施工されている				
3条確認		□無 □有⇒機構整理番号：				
特記事項						
結 果		□ 指摘内容はありません	□ 指摘内容通知書を確認する			

【凡例】判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]

確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「レ」を記入]

鉄骨造用 現場検査チェックシート（構造）/特定住宅版



郵

申込受付番号						
--------	--	--	--	--	--	--

事業者情報		
団体検査員番号		
団体検査員名		

現場検査立会者名			
現場検査日時	年 月 日		
	時 分	～	時 分

検査項目		適否の判断基準	判定	確認方法			
				目視計測	書類	聴取	
コンクリート基礎 の ト	1 品質	コンクリートがJIS規格品（JIS A 5308）又は大臣認定品である					
	2 強度	□コンクリートの圧縮強度が品質基準強度以上であることが 4週強度の試験報告書等により確認できる □コンクリートの納品書や配合計画書に記載されている 調合管理強度(呼び強度)が品質基準強度以上である					
	3 打上の 状態	打込み欠陥（ジャンカ・打継欠陥・硬化不良等）が無く、均質に施工されている					
鋼材	1 品質	鋼材がJIS規格品又は大臣認定品である					
8 鉄骨の 施工	1 部材の 寸法・形状・ 配置	柱が設計図書にさだめる寸法・形状・配置で施工されている					
		梁が設計図書にさだめる寸法・形状・配置で施工されている					
		筋交いが設計図書にさだめる寸法・形状・配置で施工されている					
		床版が設計図書にさだめる寸法・形状・配置で施工されている					
	2 溶接接合部 の検査	溶接部を対象に以下の検査が実施され、割れやアンダーカット等の 構造耐力上支障のある欠陥が無い □外観検査 □超音波探傷検査					
	3 高力ボルト 接合	高力ボルトとして以下の部材が用いられ、本数、スプライス数等が 設計図書のとおりに施工されている □トルシア形 □JIS形六角					
		摩擦接合部の摩擦面は、赤さびが発生した状態又はショットブラスト等の方法で 所定のすべり係数を有する状態である					
		締付け状態に明らかな不具合がない ・肌すきがないこと ・ピンテールが破断していること ・マーキングにズレがあり共回りしていないこと					
3条確認		□無 □有⇒機構整理番号：					
特記事項							
結 果		□ 指摘内容はありません	□ 指摘内容通知書を確認する				

【凡例】判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]

確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「レ」を記入]